市立札幌病院 地域連携センター 広報誌
令和6年2月発行

かざぐるま

45号
連携の風

CLOSE UP 形成外科のご紹介

形成外科スタッフ

CLOSE UP
- 下肢救済センターについて
- 第5回 日本フットケア・足病医学会 北海道地方会の開催について

TOPICS
- 令和5年度 地域医療連携に関するアンケート集計結果

INFORMATION
- 連携医療機関のご紹介『はらだ腎泌尿器クリニック』
- 第2回・3回 市民公開講座 開催報告

市立
札幌病院

基本理念

すべての患者さんに対して　その人格・信条を尊重し
つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

役割

❶ 高度急性期病院として地域の医療機関を支える。
❷ 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える。
❸ 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する。
❹ 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する。

役割を実現するための６つの基本目標

❶ 市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実現します。
❷ 地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します。
❸ 医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献します。
❹ 医療の質を常に向上させます。
❺ 患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します。
❻ 業務の効率化を徹底し、健全な財政基盤を確保します。

形成外科のご紹介

市立札幌病院　形成外科部長　川嶋　邦裕

形成外科は他の診療科と違い臓器別ではなく体表に生じる様々な疾患に対応する診療科で、頭から足先まで全身を対象としています。（表1）。

当院の特徴としては、下肢救済センターを担っていることから難治性潰瘍の手術件数が多いことがあげられます（表2）。

他診療科との連携も多く、救命救急センターとは重症熱傷や重症軟部組織感染症（壊死性筋膜炎、ガス壊疽）の治療を行っております。耳鼻咽喉科や歯科口腔外科とは、口腔から咽頭にかけての癌に対し遊離組織移植を用いた再建を行っております。乳腺外科とは自家組織、人工乳房を用いた乳房再建を行っております。

近年高齢者の皮膚がんが増えております。外科手術で切除できれば良いのですが、腫瘍が大きかったり認知症で手術が難しい患者さんもいらっしゃいます。そのような場合は放射線治療科と連携し放射線治療を行っております。

形成外科の目標とするところは、病気を治すばかりではなく形態・機能を回復し生活の質（QOL; quality of life）を向上させるところにあります。当施設は日本形成外科学会認定施設であり、常勤医5名（3名は日本形成外科学会専門医）と非常勤医2名で診療にあたっております。

紹介いただく患者さんをできるだけ早く診察できるよう、月水金は3人体制で、これまで手術日で行っていなかった火曜日も令和6年1月から外来を始めました（表3）。また、毎週木曜日には創傷・フットケア外来を行っています。下肢救済センターの外来を兼ねており、重症下肢虚血や糖尿病性足潰瘍の治療を行っております。緊急を要する場合はDr to Dr（Dr to Dr患者紹介専用ダイヤル：011-788-6570）でご連絡ください。

表1　形成外科が対象とする主な疾患

・先天異常	唇裂・口蓋裂、耳介の変形、手指・足趾の異常
・外傷（けが）	交通事故、労働災害などにおける顔面骨骨折やケガ
・熱傷（やけど）	電撃傷、化学損傷、凍傷なども含まれます
・瘢痕・瘢痕拘縮（ひきつれ）	外傷、熱傷、手術後に生じる瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド
・皮膚腫瘍	母斑（あざ）、血管腫などの良性腫瘍、皮膚癌などの皮膚悪性腫瘍、および種々の皮膚・皮下腫瘍
・潰瘍	褥瘡（とこずれ）、下腿潰瘍など
・眼瞼下垂、腋臭症（わきが）	
・顔面神経麻痺、乳房再建（乳がん手術後の乳房欠損に対して）等	

表2　2022年の手術総件数

1. 外傷	43件
2. 先天異常	41件
3. 腫瘍	396件
4. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	45件
5. 難治性潰瘍	462件
6. 炎症・変性疾患	35件
7. 美容外科	0件
8. その他	41件
9. レーザー治療	0件
合　計	1,063件

表3　外来当番医

	月	火	水	木	金
午前	吉田 堀内 開田 ☆	医師不定 ☆ （手術）	川嶋 吉田 森山 ☆	堀内 創傷・フットケア外来 9時00分～12時00分 （予約のみ） ☆	吉田 川嶋 櫻井 ☆
午後				堀内 創傷・フットケア外来 14時00分～15時00分 （予約のみ）	

※原則紹介制外来です。初めて受診される際は紹介状が必要です。
☆印は月～金曜日の午前、一般外来枠の中で地域連携優先枠があります。

下肢救済センターについて

市立札幌病院　循環器内科　鈴木　理穂

■ 下肢救済センターとは

2017年より開設された当院下肢救済センターですが、あっという間に6年が経過しました。当センターの特徴は、形成外科・循環器内科・心臓血管外科が協力し、足病治療に欠かせない創傷治療からカテーテル治療・バイパス手術などの血行再建まで同時進行で治療できる稀有なセンターということです。さらに現在は、認定看護師や管理栄養士、臨床工学科などコメディカルと協力のもと、高圧酸素療法やLDL吸着療法などの補助療法も積極的に取り入れ、検査・診断・治療を集学的に行っております。

左：堀内センター長、中央：鈴木副医長

■ 下肢閉塞性動脈硬化症／重症虚血肢とは

下肢閉塞性動脈硬化症は下肢の末梢血管の動脈硬化を原因とする疾患です。初期症状は間欠性跛行ですが、病状が進行すると、安静時疼痛や潰瘍・壊死などが出現し、重症虚血肢と診断されます。本邦は高齢化社会や糖尿病などの生活習慣病の増加、透析施行症例の増加により、重症虚血肢を患う症例数が年々増加しています。重症虚血肢を放置すると、1年間で20％以上が下肢切断に至ると報告されており、重篤な疾患ですが、その認知度はまだまだ低いのが現状の問題です。早期発見のもと、適切な血行再建、創傷の適切な管理を行い、また、患者さんの足疾患の認知度の向上、フットケアの指導により、再発予防の教育が重要と考えます（図１）。

■ 治療について

・血行再建

血流回復のため、当院ではカテーテル治療（図2）を行う循環器内科とバイパス手術（図3）を行う形成外科・心臓血管外科で治療方針を協議し決定しています。カテーテル治療は低侵襲であり、近年飛躍的にデバイスや手技の発展が認められたことから、下肢血行再建の主流となりつつあります。しかし、膝下血管や総大腿動脈などは外科的治療が非常に有効な症例もあり、当院では個々の症例の背景や病変をもとに、外科・内科合同で検討し適切な治療を選択しております。また両者のハイブリッド治療で利点を増やす工夫を行っております。

・全身管理

重症虚血肢の症例は糖尿病や腎機能障害、心臓病や脳血管疾患、膠原病など、多種多様の疾患を併存しています。下肢症状が全身症状の一症状であることも少なくありません。総合病院である当院では、下肢救済センターだけでなく各科で治療を共有し、全身の集学的治療を行っています。

・補助療法

重症虚血肢の症例では、毛細血管レベルの小血管まで病変を有することが少なくありません。カテーテル治療やバイパス治療だけでは創部への血流が不十分で、創傷治癒に至らない場合もあります。当院ではそのような症例で有効性が報告されている高圧酸素療法やLDLアフェレーシスを積極的に取り入れています。

下肢治療は早期発見が重要です。すこしでもお困りの症例がございましたら、お気軽にご相談いただけますと幸いです。今後も最新の知見と技術をもとに治療を行い、みなさまとともに救肢に努めてまいります！

図１　創傷治癒経過

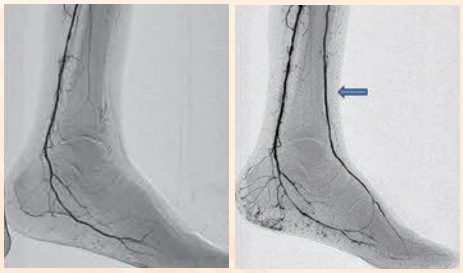


図2　カテーテル治療（左治療前、右治療後）

図3　バイパス治療

「第5回 日本フットケア・足病医学会 北海道地方会」の開催について

市立札幌病院　看護部　皮膚・排泄ケア特定認定看護師　佐藤　明代

2024年7月6日（土）、札幌市で「第5回　日本フットケア・足病医学会　北海道地方会」が開催されます。

このたび、桑園中央病院　救肢創傷治療センター長　齋藤　達弥　医師とともに大会長を拝命いたしました。

当学会は北海道から誕生した「下肢救済・足病学会」を基盤とし、日本フットケア学会と合併しさらなる発展を目指しています。

今回のテーマは、「まもる・つなぐ」です。足病からフットケアまで幅広く患者さんに関わる皆さまにとって、これまでの下肢救済での学びを北海道全体につなげていきたいという気持ちを込めたテーマとしました。参加していただいた皆さまとの「つながり」を持てるよう、セミナーや展示等を企画しています。

今回新たな取り組みとして、北海道内で「フットケア外来」を実施している施設一覧を作成いたします。「こんな時は当院へ」としたPR発表会も行う予定です。参加される皆さまにとって有益な時間となりますよう、また、足を「まもる」ための新しい知識を得る機会になるよう万全の準備で進めています。

初夏の爽やかな気候の札幌を楽しみながらぜひ、「第5回　日本フットケア・足病医学会　北海道地方会」に参加いただければ幸甚に存じます。

最近のフットケアに関する話題の一つに「フットハイジーン」があります。

この「フットハイジーン」は、足衛生を広く市民に向けて発信することで、足病予防の啓発に取り組むとともに、今現在、足病を患っている患者さんへのケア方法として推奨するものです。足の清潔を保持するとともに、爪切りや適切な靴の着用などトータル的なフットケアを「フットハイジーン」として新しい習慣になるよう取り組みを始めています。市立札幌病院創傷フットケア外来においても「フットハイジーン」に則した足部のケアを実施しています。

当院の創傷フットケア外来は、2008年より形成外科外来の専門外来として開設し、堀内理事・下肢救済センター長を中心に専門医や皮膚・排泄ケア特定認定看護師が参画して運営しています。通院される患者さんの大半が糖尿病を患っているため、糖尿病看護認定看護師との連携も強化し、糖尿病指導も並行して実施しています。また、透析患者さんや訪問看護を利用している患者さんも多く、透析病院や訪問看護ステーション等に対し、タイムリーな情報共有を行い、統一したケア・治療により悪化予防を目指しています。足病患者さんは再発率が高く、胼胝や巻き爪であっても感染を起こし手術を要することが多いです。患者さん自身でできるケア方法を伝え、外来受診時に状態を確認し患者さんと医療者で協同しながら治療を進めています。今後とも地域医療機関の皆さまとの連携を大切に「つなぐ」ことを意識して、足病患者さんの予防とケアに取り組んでまいります。

左：桑園中央病院　齋藤医師、右：佐藤皮膚・排泄ケア特定認定看護師

令和5年度 地域医療連携に関するアンケート集計結果

この度、連携医療機関の皆様に2023年7月から9月の期間で「地域医療連携に関して、当院に対する意見・要望等を把握し、今後の改善のために取り組むこと」を目的にアンケートをお願いいたしました。その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【対象・方法】

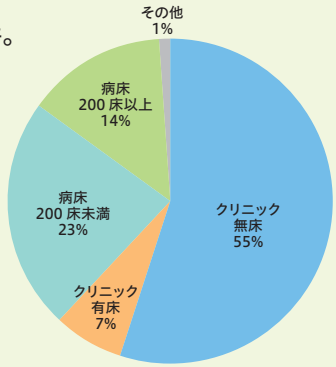
連携医療機関699施設を対象に、GoogleFormへのアンケート入力を依頼しました（7 ～ 8月）。回収数が少なかったため（約60件）、再度ＦＡＸ送信にてお願いし（9月末まで延長）、回答方法をＦＡＸならびに郵送でも可能としました。

【回答率】

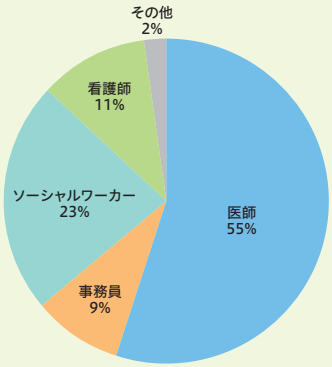
オンライン回答165件、ＦＡＸ回答9件で合計174件。
有効回答率100%、回答率24.9%でした。

【属　性】

施設名記入があったのは122施設で、回答施設をすべて病床別にしました。クリニックが有床無床を合計して62%と最も多く、回答者は医師が55%、次いでソーシャルワーカー 23%、看護師11%、事務員9%でした。



病床別



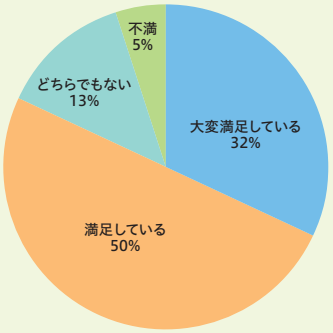
回答者

【結　果】

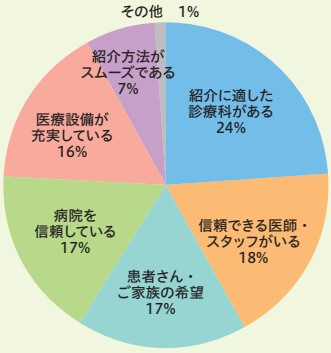
皆様には、20のご質問にお答えいただきました。3つのカテゴリーに分類し一部をご紹介します。

1．当院の対応についての満足度：

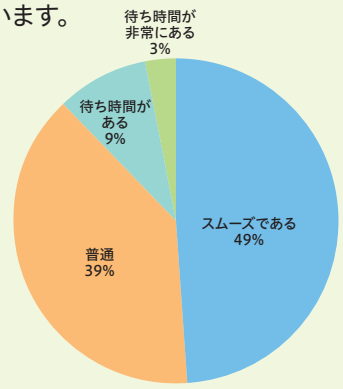
［紹介予約時の対応］［Dr to Dr専用ダイヤル］［診療全般の対応］は、大変満足・満足・普通を合計すると約80%であり、不満が少ない結果でした。不満の理由は、「予約取得に時間がかかる」「緊急を要していても手術の待ち時間があり他院に依頼する事が増えた」「Dr to Drでここ数カ月、受け入れを毎回断られる」等の記載がありました。また、一部の医師や職員の対応が上から目線であるとの意見もいただいています。



紹介予約時の対応について



当院への紹介の理由（複数回答）



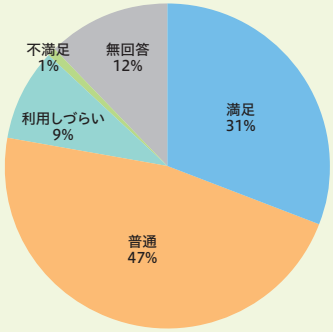
紹介予約時のスムーズさについて

2．当院のシステムについて：

［すずらんネット］［開放型病床］は、活用していない施設が80%以上でした。すずらんネットへの参加の希望や「変更となったすずらんネットが使いづらい」という意見もありました。

3．当院の体制や診療に対する希望・期待：

［外来・逆紹介後の状況］［転院時の患者情報］［期待する医療］への回答は、現状で問題ないとの回答が多い結果でした。一方、「逆紹介の際には必ず一報がほしい・予約してほしい」「手術がなかなか入らないということだがどうにかならないのか」などの意見がありました。［連携に向け改善策や提案］では、多数の様々な意見をいただきました。さらに、［その他］には個別の医師等への励ましや感謝のお言葉を頂戴しました。



Dr to Dr専用ダイヤルの満足度

【今後の対応】

地域連携センターは、以下の課題に早期に取組みます。

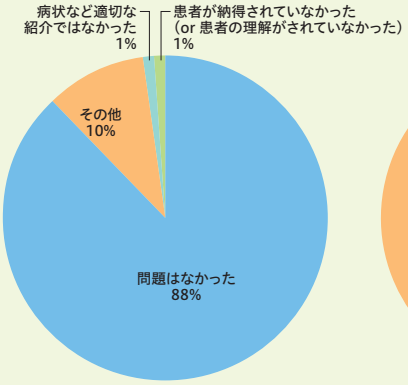
・すずらんネット参加希望の施設や使用方法の当院からの説明不足と思われるご意見に対して

・紹介予約の際のご意見について、地域連携センター予約センター・札幌市医師会地域医療室で共有し、改善策の検討と実施

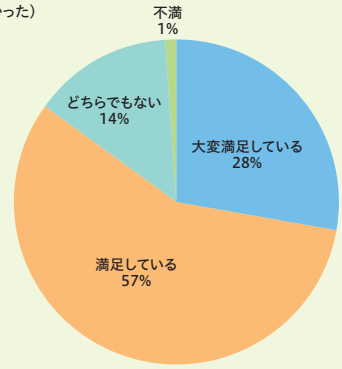
また病院全体で、以下について各種会議で共有いたしました。今後、対応を検討いたします。

・Dr to Dr や患者受け入れに関するご意見について

・手術の予約状況等を確認するとともに、紹介時の対応について



貴院への外来・逆紹介の状況について



診療全般の対応についての満足度

お忙しい中、アンケートにご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。多くの励ましや、厳しいご意見も頂戴し、職員一同、身が引き締まる思いでおります。今後ともよりよい連携を目指し、努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

■問い合わせ：地域連携センター地域連携課　内線2180

【お知らせ：オンライン予約システムの導入について】

紹介予約時の対応に関して、「予約が簡単（患者さんに任せられる）」「比較的早期の予約が可能」というご意見がある一方で、「手間がかかる」「予約が難しい」といったご意見もありました。オンライン予約の導入については「時間外及び土日でも予約できるなら希望する」「紹介元が関わらず患者さん自身で予約してもらえるなら賛成」といったご意見をいただいております。

急性期病院における紹介状を持った患者さんからの予約方法は、電話予約が一般的となっておりますが、医療機関側の電話対応のリソースが限られている中で、当院においても予約の電話が繋がりにくく、患者さんにご迷惑をおかけする場面がありました。

このような背景のもと、当院では紹介状を持った患者さんがオンラインで予約できるシステムを導入する予定です。患者さんが予約できる間口を広げ、24 時間 365 日予約の申し込みが可能な体制を整えることで、予約が取りやすくなり、地域の医療機関の皆様が当院にご紹介いただく際の負担軽減にも繋がると期待しております。

現在、令和 6 年度の運用開始に向けて進めておりますので、準備が整いましたらまた改めて皆様にご報告いたします。

連携医療機関のご紹介

はらだ腎泌尿器クリニック

院長　原田　浩

■経歴
1987年　北海道大学医学部卒
1999-2019年　市立札幌病院で腎移植・泌尿器科医として勤務

小生は市立札幌病院に20年以上に渡り勤務し、腎移植の臨床、研究に携わってきました。腎移植数も当初の月2例ペースが週1例ペースとなり、全国でも有数の腎移植センターとなりました。気がつけば、駆け出しのころは少なかった外来患者さんの数も一日50人を超えるようになりました。70人を超えたある日、病院の会議に間に合わない事態となり、このままでは安全な腎移植医療が立ちゆかなくなると考え、一心発起し2019年8月2日に市立札幌病院向かいの「ほくやくビル4F」に当院を開業しました。近年の移植患者さんの数の増加は、急性拒絶反応や、感染症などの急性期病変が減少し、生存率、生着率も良好であるからに他なりません。当院の理念は、市立札幌病院と変わりない医療あるいはそれ以上の細やかな医療を施設が変わっても提供することにあります。またホームページをご覧になっていただければお分かりになりますが、キャッチフレーズには「おしっこトラブルから腎移植まで」とあります。つまり患者さんは腎移植の文字を目にすることとなります。これまで、特殊な医療だと認識されがちな腎移植医療をより、普遍的な医療にすることも大きな目的です。現在市立札幌病院で移植後1年を経過した450人を超える腎移植患者さんのフォローアップ外来を中心に、泌尿器科、腎臓内科の患者さん、さらには腎移植ドナーさんのフォローアップも行っております。

市立札幌病院では、飽和した外来の状況を好転させ、より充実したフォローアップ体制の構築、増加している腎移植前の精査、対応、腎移植手術への集中、臓器提供時の余裕をもった対応が可能となっていると伺っております。

最後に、当院は市立札幌病院との病診連携を実践しています。つまり、紹介-逆紹介、開放病床制度の利用（定期移植腎生検での小生による穿刺）、医療機器の提供の享受（CTやMRIなどの画像検査）、医療技術の提供（毎週の移植手術時の技術指導）になります。今後とも市立札幌病院との連携をさらに密に患者さんはもとより医療者、周囲の関連する方々が上手く回るような体制を充実させて参りたいと思います。

受付

●診療時間

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30〜12:00	●	●	●	—	●	●	—
13:30〜17:00	●	●	●	—	●	—	—

お電話での予約が便利です。
なお、新患の方は病院ナビからのご予約が便利です。

●交通案内

住所：札幌市中央区北11条西14丁目1-1
ほくやくビル4F
TEL：011-738-1409
ホームページ：https://harajin.jp

第2回・3回市民公開講座　開催報告

第2回

日　時：令和5年9月9日（土）
テーマ：“足し算命を生きる”
講　師：JA愛知厚生連　海南病院
緩和ケア内科　大橋　洋平医師

第3回

日　時：令和5年12月2日（土）
テーマ：“健康長寿をめざしてII”
～認知症について知っておきたいこと～
第1部：「認知症を予防するためには」
講師：市立札幌病院　精神科部長
伊藤　侯輝 医師
第2部：「どんどん眠ろう？
～“睡眠”の正しい知識をもって予防に取り組む～」
講師：市立札幌病院　看護部
東谷　敬介 精神看護専門看護師

第2回・3回とも来場・オンラインでのハイブリットで開催し、双方ともにたくさんの方にお越しいただきました。

第2回の講師、大橋先生からは、ご自身が患っている「GIST（消化管間質腫瘍）」の症状の経過、がんを患いながらこれまでどのように生活されてきたか、これからについてなど、「がん患者」「緩和ケア医」双方の立場から明るくユーモアをまじえながらお話しいただきました。

第3回　第1部講師の伊藤医師からは、認知症全般、特に認知症の大半を占める「アルツハイマー型認知症」について、治療や検査についてなど、最新の知見をもとにお話しいただきました。

また、第2部講師の東谷看護師からは、認知症予防の観点からの「睡眠」についてお話しいただきました。睡眠時間は長すぎても短すぎても認知症発症リスクとなりうること、睡眠時間にとらわれず“休養感”のある睡眠を目指すこと、など具体的にわかりやすくお話しがありました。

終了後に実施したアンケートでは、「生きる力をいただきありがとうございました」「認知症も生活の中で予防することができるとのことですので、生活の中で今日のことを取り入れていこうと思いました」「TVなどで聞いたことはありましたが、医師と看護師の話を直接聞けて内容も深くとても嬉しかった」などたくさんのご意見をいただきました。

今年度の市民公開講座は全て終了いたしましたが、来年度の予定につきましては、決まり次第当院ホームページ等でお知らせいたします。

ご参加いただいた皆さま、講師の皆さま、ありがとうございました。

編集後記　～「その人らしさ」とは～

我が家には小3の長女がおります。幼少の頃から、我が子に関わる周りの大人からは「しっかりしている」「言いたいことを言わずに我慢させていないか心配」とよく言われてきました。あまりによく言われるので、私たち親も自分を押し殺しているのでは、と常々気にしていました。そこで本人に「我慢させてないかってよく心配されるけど、何か我慢して話せないこととかあるの？」とストレートに聞いてみました。すると長女は「毎日楽しいことも嫌なこともあるけど、パパとママにもそれぞれ話すこと違うし、お友達だってそう。みんなに同じ話をしないといけないの？」と一言。その言葉を聞いて、長女なりに“自分らしく”対応していることがよくわかり、感心しました。子どもにとっての「社会」は大人に比べるとまだまだ狭い世界で、これからの人生いろんなことが待ち受けています。その時に社会の広さに対応できる幅が少しでも広がるよう、そして長女らしく自らの力で生きられるよう、たくさんの社会経験をさせてあげたいと思いました。その反面、最近親への塩対応が増えてきて、迫りくる「思春期」に戦々恐々ともしています。（山本記）

ホームページもご利用ください　市立札幌病院

ナかざくるま 45
編集・発行／2024年2月発行　市立札幌病院 地域連携センター運営委員会（事務局：札幌市病院局 地域連携センター）
〒060-8604　札幌市中央区北11条西13丁目　電話代表：(011)726-2211　FAX：(011)726-9583
さっぽろ市 01-N05-23-801 R5-1-72